市民を愛する　市民に愛される　病院へ

荒尾市民病院～地域連携室だより～ 小岱

第13号（平成21年10月発行）

〒864-0041　熊本県荒尾市荒尾2600
荒尾市民病院
相談支援センター　地域医療連携室
TEL　0968-63-1115（代表）（内線536）
FAX　0968-62-4543
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞｱﾄﾞﾚｽ　www.hospital.arao.kumamoto.jp/
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　bsn@hospital.arao.kumamoto.jp

地域医療支援病院の承認を受けました

地域医療機関の皆様のご理解とご支援のもと、当院は平成21年7月28日付で熊本県知事より「地域医療支援病院」として承認されました。城北地区、自治体病院初の承認です。申請から承認に至る過程には、皆様方の多大なご協力の賜物と職員一同心よりお礼申し上げます。

当院は、平成14年有明地域医療連携ネットワークを設立し、地域の医療関係者とともに地域医療を推進してきたことも大きな評価につながっていると思われます。今後も地域の医療関係者の皆様と更なる連携を深め、地域完結型医療の推進に努めてまいります。　職員一同

★地域医療支援病院とは

医療政策の中で、医療は患者に身近な地域で提供されることが望ましいという観点から、かかりつけ医を地域における第一線の医療機関と位置づけ、他の医療機関との適切な役割分担と連携を図っていくべきであるとしています。このような観点からかかりつけ医を支援し、地域医療の充実を図ることも役割として担っていく病院が地域医療支援病院です。

★地域医療支援病院の役割

1. 救急医療の提供（重症救急患者の24時間対応可能な医療の提供）
2. 紹介患者様に対する医療の提供（かかりつけ医さんとの連携）
3. 地域医療従事者の資質向上に関する研修会や講演会の実施
4. 地域医療従事者への院内施設、医療機器の開放等の共同利用の実施

★最後に

当院では、相談支援センターを基点として、地域の医療機関との協力体制を更に充実させ、これまで以上に地域住民や各医療機関から信頼される病院づくりを目指します。この地域医療支援病院の承認は、その第一歩であり、今後も着実に前進していきますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

お知らせ

10月より外科の月曜外来診察が1診から2診へ変更となりました。

月曜日：外科担当医　大嶋　壽海　　塚本　千佳

特集　市民病院の共同利用

荒尾市民病院は、地域の医療機関との緊密な連携と機能分担を推進し、地域住民の健康維持増進、医療技術の向上を図るために市民病院の共同利用を推進していきます。開放型病床や高度医療機器の共同利用、会議室・研修室等の施設の共同利用、研修会等参加型共同利用とともに個別栄養指導やフットケア外来など患者様の療養指導においても共同利用を進めています。

冠動脈64列CTの予約の流れ

①FAXにて診療情報提供書

② 予約日・時間を調整

連携病院様

荒尾市民病院
（循環器科）

③FAXにて受診票

⑤βブロッカー服用の判断などの診察を行い、検査日予約

患者様

④受診票（予約票）を受け取り、当院受診

⑥後日、検査実施

⑦結果報告

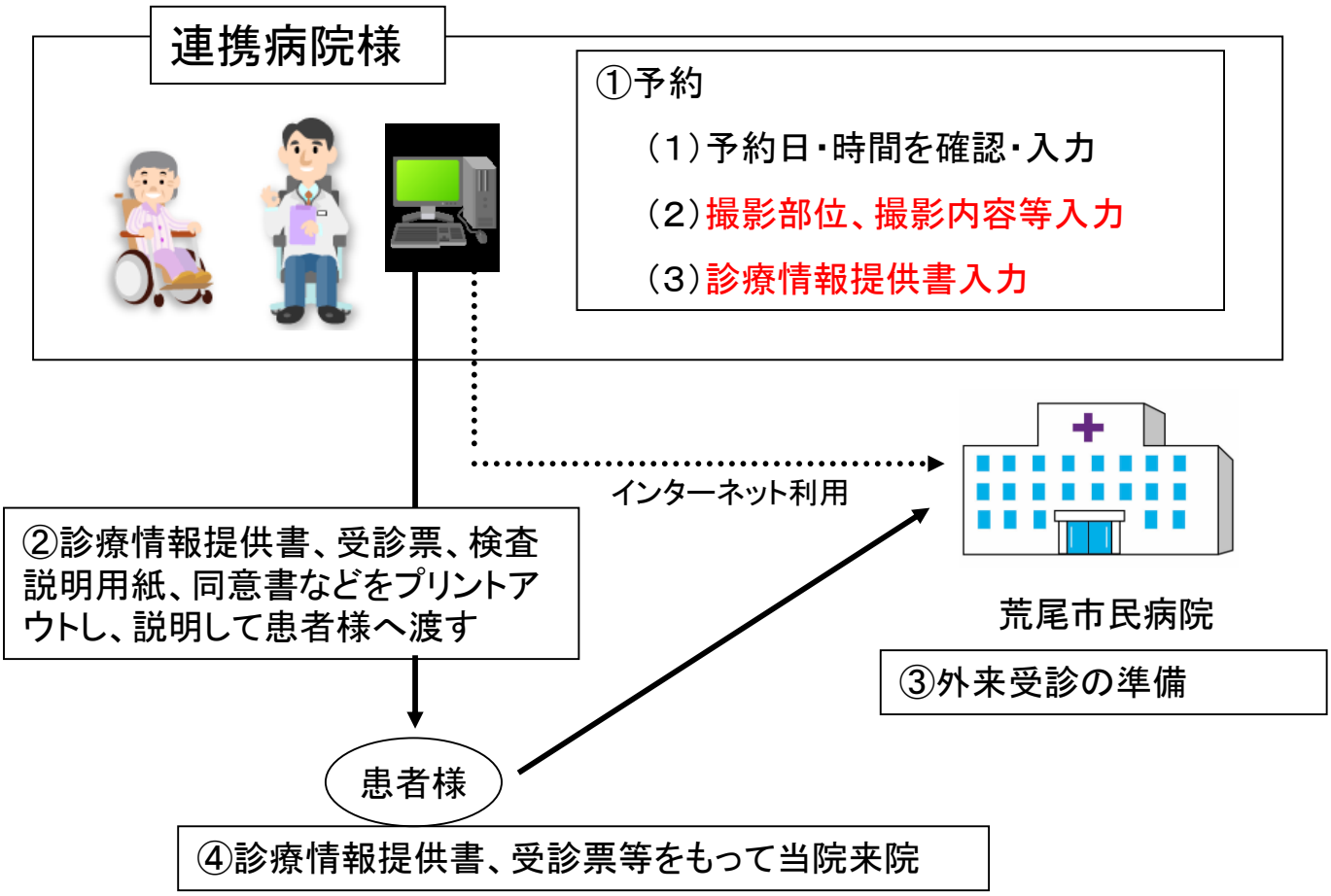
個別栄養指導（平日の午前中）

糖尿病の患者様に適正なエネルギー量の食事、栄養素のバランスの良い食事、規則的な食事習慣など管理栄養士（糖尿病療養指導士の資格を有する）が個別栄養指導を行います。申し込みは、診療情報提供書に“栄養指導希望”と記入（その他ご希望の検査などありましたら併記下さい）していただき、FAXにて相談支援センターへ送信して下さい。栄養指導の前に担当科を受診していただきますので、外来診療の予約と個別指導の予約を同一日におこない、受診票を送付いたします。

フットケア外来（毎週金曜日の午前中）

指定のフットケア研修を受けた糖尿病療養指導士の資格を有する看護師が、糖尿病の患者さんの足の評価と必要なケアを行います。対象は、①足潰瘍、足趾・下肢切断既往、②閉塞性動脈硬化症、③糖尿病神経障害、のいずれかの糖尿病病変ハイリスク要因を有する外来患者様で、医師が糖尿病病変に関する指導の必要性があると認めた患者様です。申し込みは、診療情報提供書に“フットケア外来希望”と記入（その他ご希望の検査などありましたら併記下さい）していただき、FAXにて相談支援センターへ送信して下さい。代謝内分泌内科医師の診察後、フットケアの施行となりますので、予約日を確認後、受診票をFAXにて送信します。なお、皮膚科、形成外科、整形外科の治療が必要と判断した場合、担当科を紹介させていただきます。

CT、MRIのインターネット予約のご案内



※FAXによる予約も従来どおり受け付けます。

【CT、MRIのインターネット予約の運用要項】

1. インターネットの予約枠を確保しています。
   CT：14：00～14：30と14：30～15：00までの2枠
   MRI：14：20～15：00と15：00～15：40までの2枠
2. 予約の締切は、2日前の16：00です（但し、月曜・火曜予約分は金曜締切となります）。
3. 患者様の診察中に、予約状況を確認しながら、その場で予約が可能となります。
4. ご利用される医療機関では、インターネット接続のパソコン（現在使用中のものでも可）を準備いただきますとその他の費用はかかりません（ただしインターネット使用料は必要です）。
5. 富士フィルム医用サービスカルナを利用しますので、富士フィルムとの利用契約が必要となります（費用はかかりません）。
6. データセンター方式を採用し、回線内の情報の暗号化・本人認証システム、ISMS適合性評価制度取得により高度なセキュリティ体制を確立しています。

機能分化・連携強化の新たな取り組み

平成14年有明地域医療連携ネットワークを設立以来、連携機関の皆様と地域医療の推進に努めてきましたが、機能分化・連携強化の新しい取り組みとして、リハビリテーション部門と連携室部門の担当者会議を開催する運びとなりました。現場レベルでの問題点の共有・解決に向けて、まずは顔の見える関係から第2回・第3回と発展していきたいと考えます。

有明リハビリテーション連携ネットワーク検討会（仮称）開催報告

リハビリテーション科　日野　賢司

７月１５日荒尾市民病院の第1会議室において「有明リハビリテーション連携ネットワーク検討会（仮称）」が開催されました。２３施設、１０１名の参加で、内訳は理学療法士５１名、作業療法士27名、言語聴覚士13名、看護師4名ほか当院連携室職員や看護師も数名参加し、貴重な時間を過ごすことが出来ました。先ず当院より医療連携にまつわる研修会の参加報告と当院リハビリテーション科の新患数・転帰先のデータ紹介、参加病院・施設紹介を行い、その後に代表者会議を開催し大きく3本立ての内容となりました。参加者の多くは担当される急性期、回復期、維持期、居宅といった役割分担の中でのリハビリテーション診療における患者情報の共有、また一連の動きの中での課題が大なり小なり感じながらのご参加ではなかったのでしょうか。課題解決のため、顔の見える連携を目指して熱心な眼差しが見受けられました。代表者会議では、転院時のADL状況や、送る側、受ける側が業務上の負担の少ない簡素化された連携クリパスなど今後に繋がる検討内容が早くもクローズアップされました。

有明地域医療連携ネットワーク担当者会（仮称）開催報告

相談支援センター　宮川　剛

地域連携を進める上で、連絡・調整など各病院・施設の連携担当者の交流を深めることは重要と思われます。普段は、電話連絡が主体ですので、名前と声は結びつくけど「顔」はよくわからないということも多いようです。そこで、「顔の見える連携」を第一歩とし、問題点の共有・問題解決をはかる場として、第１回有明地域医療連携ネットワーク担当者会（仮称）を９月１１日に開催いたしました。２８施設、４６名の参加をいただき、お互いの顔が見えるようにと会場のレイアウトを工夫してみました。今回はじめての開催でしたので、当院からみた医療連携と第２７５回日本医療・病院管理学会例会（テーマ：熊本の地域連携の現状と今後の課題）の参加報告を行い、各病院・施設紹介を行いました。その後の全体討議で、会の名称を有明地域医療連携ネットワーク担当者会と正式に決定しました。今後の会の運営については、時間の都合もあり、方向性が決まらず、当院より会のあり方に関するアンケート調査を行い、その内容をもとに第２回を開催することでまとまりました。地域住民の皆様が、広く平等に良い医療が受けられるように皆さんとともに考えていきたいと思います。